

農作業事故ゼロへ！

春作業は「もう一步の安全確認」を。

農作業事故が増加しています

4～6月は、農繁期を迎え農作業が最も忙しくなる時期です。県内でも例年、機械の転倒や挟まれ、熱中症による事故が相次いでいます。

一人ひとりの「注意」と「確認」で、かけがえのない命を守りましょう。

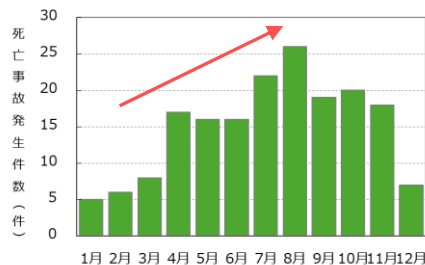


図 農作業死亡事故月別発生件数(H13～R6、岐阜県調べ)

乗用型トラクターの 転倒・転落防止

- 安全キャブ・フレーム付き機の使用
- 移動時はヘルメット・シートベルトを着用
- 左右ブレーキの連結確認



歩行型トラクターの 挟まれ事故防止

- 作業前・後退時は周囲の障害物を確認
- けん引時の旋回はハンドル操作
- 無理な姿勢での操作はしない



刈払機の安全使用

- 作業前に刈刃の確認
- 防護用装備の着用(フェイスシールド、手袋、安全靴)
- 作業開始前に危険物は取り除く
- 複数人での作業時は、十分な安全距離を確保



農薬の安全な取扱

- 保護具の着用(マスク、手袋、カップ、保護メガネ)
- ラベル記載事項の厳守
- 飛散(ドリフト)防止対策の徹底



春先の熱中症対策

- 春先でも高温注意
- こまめな休憩と水分・塩分補給
- 適切な服装・熱中症対策アイテムの活用
- 作業は複数名で行い、こまめに連絡を



- こちらも参考にしてください。

農作業安全対策
(農林水産省 HP)



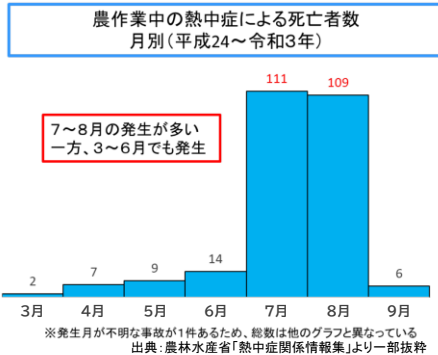
農作業安全について
(岐阜県 HP)



春でも熱中症に注意が必要です

熱中症搬送者は増加しています

- 近年、農作業中の熱中症による死亡事故が急増
- その多くは7～8月に発生、早いときは3月から
- 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じにくくなり、熱中症の危険性が高くなるため要注意



熱中症予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



☆ 水分補給は20分おきに毎回コップ1～2杯以上。塩分補給も忘れずに。

単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



出典:農林水産省「農作業中の熱中症を予防しましょう!」より一部抜粋、追記

熱中症対策アイテムの活用

身体冷却(暑いときの作業等が避けられないときに活躍)

身につけることで作業中の身体を冷やす効果があります。

アイスラリーを作業前に飲むことで、作業中の深部体温の上昇を抑えることができます。

外部冷却(カラダを外から冷やす)



ネッククーラー

内部冷却(カラダを内から冷やす)



アイスラリー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際にもリスクを回避するときに活躍。



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍。



ミストファン

出典:農林水産省「農作業中の熱中症を予防しましょう!」より一部抜粋

熱中症かなと思ったら

01 作業を中断



(代表的な症状)

- ・ 汗をかかない、体が熱い
- ・ めまい、吐き気、頭痛
- ・ 倦怠感、判断力低下

02 応急処置



- ・ 涼しい環境へ避難
- ・ 衣服をゆるめ体を冷やす
- ・ 水分・塩分を補給

03 病院へ



応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう!!

出典:農林水産省「農作業中の熱中症を予防しましょう!」より一部抜粋

☆ 「暑い環境下での体調不良」は、すべて熱中症の可能性があります。少しでも症状があれば、すぐに作業を中断しましょう。

MAFFアプリをご活用ください

「MAFFアプリ」とは、農業に携わる皆さまに役立つ情報を農林水産省からお届けするスマホ用アプリです。お住いの地域で熱中症警戒アラートが発表されると、通知を受け取ることができます。

MAFFアプリのダウンロードはこちら



App Store



Google Play